

JSOA 新理事長挨拶

2023年6月に発足した日本スポーツ整形外科学会（JSOA）も2年目となり、熊井司、金岡恒治 両会長のもと、JSOA2024が東京早稲田で開催されました。今回の学術集会は、JSOAの前身である日本整形外科スポーツ医学会（JOSSM）、日本関節鏡学会や日本膝関節学会が設立されてから50周年の節目の年となりました。学術集会では両会長による会長講演、文化講演や特別講演、ISAKOSとの国際シンポジウムなど多数の興味深いセッションが企画されました。また50周年記念として、『これからのJSOAに期待すること：若手理事からの助言』というシンポジウムもあり、今後のJSOAの在り方を考えるいい機会だったと思います。開催準備が多少遅れ、学会員の皆様方にはご心配をおかけしましたが、学会では活発な討論が行われ、成功裏に終わることができたと思います。主催していただいた両会長、早稲田大学や関係者の皆様、また皆様方のご協力に感謝しております。

ところで学会前日に行われた理事会、社員総会では、様々なことが議論されました。一つは代議員の問題です。定款には『法人の正会員のなかから、正会員数の10%を限度として選出される代議員をもって「法人法」に規定する社員とする』となっております。現在はこの規定をかなり超えているのが現状であり、これはJOSSMとJOSKASの代議員資格を本学会が引き継いだことによります。このため今回の理事会で、理由なく社員総会を3回連続欠席された代議員は、規定通り資格を失う方針を決定いたしました。しかしこの一方で、今後は定款に則り、若手・女性代議員を増やしていかなければなりませんので、この方向性は維持していきたいと思っております。代議員の皆様には積極的に学会運営に携わっていた

理事長／弘前大学
石橋 恭之



だき、学会を盛り上げていただきたいと思います。もう一つ大きな問題として財務の点があげられます。JSOAではこれまで両学会で行われてきた事業を引き継いだため、この2年間は大きく支出が上回る結果となってしまいました。現在、カダバーセミナーの日本膝関節学会への移行、リモート会議の促進、企業からの協賛など、健全な財務運営のために様々な試みを行っておりますのでご安心いただければと思います。現状では赤字決算ではありますが、学術的発展に寄与してきた Outstanding Young Investigator Awardの表彰、プロジェクト研究助成、学会の英文 official journalとしての The Asia-pacific Journal of Sports Medicine Arthroscopy, Rehabilitation and Technology（AP-SMART）、また次世代の人材育成のための国内・国外（JSOA-USA travelling fellow、GOTS、SFA、SIAGASCOT）の fellowshipは継続していきたいと考えております。特に海外での fellowshipは、一般の研修では得られない知識や経験が得られ、かつ人脈を広げるいい機会になります。若手の先生には是非積極的に挑戦していただきたいと思います。

今年の9月の社員総会でJSOA発足時の理事17名、監事2名のうち、理事6名、監事1名がご退任され、新たに8名の新理事、1名の新監事を加え新体制となりました。私もJSOA理事長2期目となります。先に述べましたように解決しなければならない問題は山積しておりますが、理事・代議員の先生方のお力を借りしながら、本会がさらに発展できるよう誠心誠意努力したいと考えております。今後ともご協力、ご支援の程、何卒お願いいたします。

学術集会報告 日本スポーツ整形外科学会 2024 JSOA-KOSSM Combined Meeting

会長 熊井 司・金岡 恒治 早稲田大学スポーツ科学学術院



日本スポーツ整形外科学会 2024 (JSOA2024) を 2024 年 9 月 12 日 (木) と 13 日 (金) に、JSOA-KOSSM Combined Symposium を 9 月 14 日 (土) に早稲田大学大隈講堂・早稲田大学キャンパス・リーガロイヤルホテル東京において開催しました。今回は JOSKAS と JOSSM が合併して 2 回目の開催となり、JOSSM の開催から数えて 50 周年目になる記念すべき大会でした。本学会のテーマは、スポーツ医学について改めて学ぶ場をしたいと考え、「學」一スポーツ医科学の学び舎とさせていただき、特別講演を室伏広治先生 (スポーツ庁) と川上泰雄先生 (早稲田大学)、招待講演を Paul Hodges 先生 (Queensland 大学) と Kyungtai Lee 先生 (KT Lee Orthopedic Hospital)、文化講演を遠藤秀紀先生 (東京大学総合研究博物館) と木村亮介先生 (琉球大学人体解剖学講座) にご担当いただき、シンポジウムを 16 セッション、パネルディスカッションを 8 セッション、教育研修講演を 24 セッション、特別企画を 2 セッションと盛りだくさんの内容でした。

スポーツ医学の場は医療施設とスポーツ現場の 2 箇所にあります。会長の熊井と金岡がスポーツ現場での活動を長年行ってきたことから、競技現場で必要とされる、アスリートを中心にしたスポーツ医学的知識が学べるようなプログラムを組ませていただきました。そのため身体部位別のセッションを減らして病態別や競技種目別のセッションを増やしましたが、参加者の方々からは、“聴きたい演題が多くて迷った” や “聴けなかったのでアーカイブはないの?” などのお褒めの言葉をいただきました。今後の学術集会でもこのような “athlete centered” とするディ

スカッションが 50 周年を迎えた JOSSM から引き継いできた DNA として引き継がれていくことを期待します。

参加者総数は 2022 名で、医師 1169 名、メディカルスタッフ 527 名、初期研修医 25 名、学生 72 名、その他の方 229 名と多くの方に参加していただき、二日間の短い間でしたが熱く有意義な情報交換が行われました。学会運営に関しては不行き届きの点も多々あったかと思いますが、本学会で発信された情報をもとに、日本のスポーツ医学がますます発展し、より多くの競技者のメディカルサポート体制が充実していくことを確信しております。ご参加、ご協力くださった皆様、JSOA 会員の皆様に厚くお礼申し上げます。



全員懇親会での参加者集合写真



大隈講堂での室伏先生の特別講演風景



リーガロイヤルホテルでの野球障害予防懇話会でのディスカッション

Outstanding Young Investigator Award (OYIA) 受賞者のことば

宮崎大学 横江 琢示



この度は OYIA 賞という大変栄誉ある賞を 2 度も受賞させていただけたことを大変嬉しく思うとともに誇りに思いません。帖佐悦男名誉教授の下、自由に研究をさせていただけたことはもとより、他大学の優れた先生方と交流する中で英語論文を書く意義を強く感じたことが本賞に繋がったと考えます。すべての方々に感謝申し上げます。この賞に満足することなく、引き続き整形外科領域のエビデンスの構築に寄与していきたいと考えます。

筑波大学 蒲田 久典



OYIA に選出いただき誠に光栄に存じます。腰椎分離症は青少年スポーツ選手の重要な疾患であり、日本から多くの研究が発表され治療体系が大きく進化しています。私たちの長年の研究成果が評価されたことは大変励みとなり、さらなる飛躍への原動力です。今後も「筑波から世界へ」をテーマに、情熱と覚悟を胸に、真に“Outstanding”なスポーツ整形外科医を目指し、臨床と研究に邁進してまいります。

大阪公立大学 西野 竜哉



この度は栄誉ある OYIA 賞を授与頂き誠にありがとうございます。本賞の対象業績は MRI を用いた外側円板状半月板の形態、治療評価についての研究であります。ご指導賜りました橋本祐介先生、中村博亮前教授をはじめ同門の先生方、そして本賞の御選考を頂いた選考委員の先生方に深謝申し上げます。今後はこの賞を後進の先生方が受賞できるような指導医を目指して参りたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

2024 和文論文賞（若手奨励賞） 受賞者のことば

金沢大学 仙石 拓也



この度、若手奨励論文賞に選出いただき、誠にありがとうございます。本研究を遂行するにあたり、ご指導いただきました金沢大学整形外科のスポーツ研究班の皆様、この場を借りて感謝申し上げます。本研究は、COVID-19 の流行により ACL 再建術後の外来リハビリテーションが十分に実施できなくなったことを契機に始めました。アプリケーションを活用し、術後の下肢筋力の改善を促進できるかを調査した研究です。現在も改良を重ねており、今後は最良の形で臨床に適應できるよう努めてまいります。

今後の学術集会

schedule

日本スポーツ整形外科学会 2025 (JSOA2025)

会期 2025 年 9 月 12 日 (金)、13 日 (土)

会長 菅谷 啓之 (医療法人社団 TSOC 理事長、東京スポーツ & 整形外科クリニック院長)

会場 ザ・プリンス パークタワー東京 〒105-8563 東京都港区芝公園 4-8-1

テーマ 知と技~Expertise in Orthopaedic Sports Medicine

① Athlete Management ② Sports & Arthroplasty

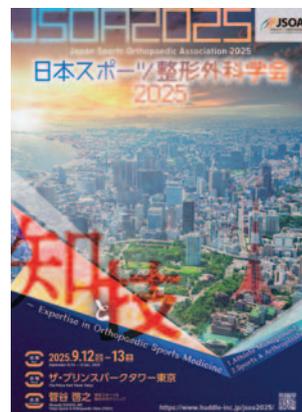
学会ホームページ <https://www.huddle-inc.jp/jsoa2025/>

演題募集期間 2025 年 3 月中旬~4 月末 (予定)

主催事務局 東京スポーツ & 整形外科クリニック 〒170-0012 東京都豊島区上池袋 4 丁目 29

運営事務局 株式会社ハドル内 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-1-12 クロスオフィス新宿 3 階

TEL : 03-6322-7972 E-mail : jsoa2025@huddle-inc.jp



日本スポーツ整形外科学会 2026 (JSOA2026)

会期 2026 年 8 月 27 日 (木) ~29 日 (土)

会長 中村 憲正 (大阪保健医療大学)

会場 札幌コンベンションセンター

Traveling Fellow 報告記

USA

慶仁会 城山病院 入内島 崇紀



JSOA-USA Traveling fellow として 2024 年 7 月に 3 週間アメリカに行かせて頂きました。ご推奨頂きました先生方、JSOA 事務局の方々、楽しい旅を一緒に過ごした糸魚川先生、片倉先生に心よりお礼申し上げます。人生にまたとない素晴らしい経験をさせていただきました。ピッツバーグ大学、Hospital for special surgery、ニューヨーク大学、ジョーブクリニックにおいて ACL 再建や半月板手術、アログラフトを用いた半月板移植や軟骨移植を見学しました。外来診療を見学させて頂き、患者さんの話をよく聞き、またよく触れるアメリカトップサージャン達の姿に感銘を受けました。専門



ピッツバーグ大学 Volker Musahl 先生と

とする ACL の解剖学的研究に関して多施設でプレゼンテーションを行い、多くの議論をさせて頂きました。デンバーで開催された AOSSM にも参加いたしました。アメリカと日本では治療で重視する点や論点が大きく異なることに驚きました。個人的には留学時以来 15 年ぶりにピッツバーグを訪問し、恩師である亡き Freddie Fu 先生のお墓参りに行けたことが心に残りました。この素晴らしい経験を今後の診療、研究に活かして参りたいと思います。ありがとうございました。



恩師 Freddie Fu 先生のお墓参り

東京科学大学 片倉 麻衣



2024 年 JSOA-USA トラベリングフェロシップでピッツバーグ大学、AOSSM 総会、Hospital for special surgery (HSS)、ニューヨーク大学 (NYU)、Kerlan-Jobe orthopedic clinic を訪問させていただきました。各施設では、自分の専門の足の外科を含めたスポーツ整形外科について、手術や外来の見学、研究室訪問、研究プレゼンテーション、スポーツ現場見学など様々な経験をさせていただきました。



HSS にて、左から筆者、Dr Marx、入内島先生、糸魚川先生

私が力を入れているダンス医学については、NYU では附属の Harkness センターの Dr Rose の外来を見学し、ダンサーの特徴も考慮した丁寧な

診察に感銘を受けました。また、理学療法部門との連携システム、現場対応システムを学びました。また HSS でも、パフォーマンスの医師らからプレゼンテーションにご意見をいただいて議論をすることができ、有意義でした。

どの施設もとてもあたたかく迎えてくださり、数多くの方々との交流から刺激を受けました。このような素晴らしい機会をくださった学会、関係者の皆様、また実現できるようサポートしてくださった皆様に深謝申し上げます。今後、少しでも学会に還元できるよう努めて参りたいと思います。



NYU にて。研究プレゼンテーションの後に

順天堂大学 糸魚川 善昭



2024 年 JSOA-USA トラベリングフェローにて、自分が専門とする多数の肩関節鏡やスポーツ関連の手術、人工肩関節手術の見学をさせて頂き、米国トップクラスのドクターの臨床現場を肌



カーレンジョーブクリニックにて Dr. ElAttrache と



ドジャースタジアム観戦席にて (左から入内島先生、糸魚川、片倉先生)

で感じる事が出来ました。最後の訪問地であるカーレンジョーブクリニックではメジャーリーガーに対する肘トミージョンや投球障害肩の手術や外来診療を見学出来、さらにドジャースタジアムに招待して頂き、野球観戦に加えチームドクターと面会しスタジアムでのスポーツ現場の現状を学ぶことが出来ました。又 HSS でも同様に NY レッドブルスタジアムでプロサッカーの観戦とスポーツドクターの活動を学ぶことが出来二つのスポーツ現場を訪問出来たのは大変勉強になりました。今回回ったすべての施設において様々な人との出会いがあり、このような素晴らしい機会を与えて頂いた国際委員会の選考委員の先生方、推薦して頂いた石島旨章先生、山本宣幸先生を含め関係者の皆様にご感謝すると共に、今回の経験を活かし JSOA の発展に貢献していきたいと思ひます。

Traveling Fellow 報告記

TOSSM

TOSSM のホスピタリティ

東京科学大学 長谷川 翔一



2024年6月29日から7月7日にかけて、JSOA-TOSSM Traveling Fellowshipの一員として、Thammasat 大学病院と Siriraj 大学病院の見学、TOSSM 2024 annual meeting に参加する貴重な機会をいただき、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

タイ滞在中、TOSSM の皆様の温かいホスピタリティに深く感銘を受けました。Dr. Nadhaporn とフェローの方々、バンコク到着時、笑顔で温かく出迎えてくださいました。毎晩のように本場のタイ料理でもてなしを受け、スクーターツアーや早朝サイクリングなど、忘れられない思い出を共に作る事ができました。



バンコク市内のスクーターツアー（左から Dr. Nadhaporn, 杉先生、橋口先生、筆者、フェローたち）

TOSSM 会長の Dr. Bancha、次期会長の Dr. Ekavit には、お忙しい中、病院見学や手術の説明に加え、院内でのタイ式マッサージ (!) まで手配していただきまし

た。フェローの方々も、常に私たちを気遣い、王宮や寺院へ案内してくださるなど、タイの文化に触れる貴重な機会を与えてくださいました。彼らのホスピタリティと、私たちへの惜しみない時間には感謝しかありません。

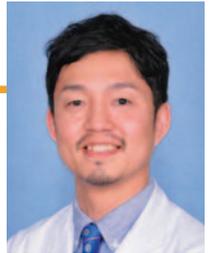
9日間という短い期間でしたが、TOSSM の皆様との出会いは、私の医師人生にとってかけがえない財産となりました。タイでできた友情を大切に、今後も交流を深め、アジアのスポーツ整形外科の発展に共に貢献していきたいと強く願っています。



Thammasat 大学病院見学後のディナーにて（右から杉先生、筆者、橋口先生、Dr. Bancha, Dr. Adinun, フェローたち）

施設見学

札幌医科大学 杉 憲



まずはこのたび JSOA-TOSSM トラベリングフェローに選出頂き、大変貴重な経験をさせて頂いたことに対し、この場をお借りして皆様に深く感謝申し上げます。

今回はタイの学会参加に先立ち、Thammasat 大学病院と Mahidol 大学 Siriraj 病院を見学させて頂きました。各施設では早朝に short lecture として、我々が日本国内で行った研究についての発表と意見交換を行わせて頂きました。



Short lecture 後、Dr Bancha と多くのスタッフに囲まれて

Thammasat 大学病院はバンコクの北部約 50 km に位置し、本会の会長であられた Dr Bancha の手術を拝見しました。まず驚いたことは、肩関節鏡・人工肩関節のみならず、膝関節の靭帯再建や骨切り術も高いレベルで執刀されていたことで

す。数多くのフェローが見学している中、実際に手術に参加させて頂き、間近で手術指導を頂いたことは大変貴重な経験でした。

翌日訪問した Siriraj 病院はバンコク市内にあるタイ国内最大最古の病院で、学会次期会長である Dr Ekavit の鏡視下肩腱板修復術を拝見しました。お二方に共通して感じた事は、限られた医療財源において手技の一つ一つに創意・工夫が含まれ、技術が洗練されていたということです。また手技のみならず、学術に対する姿勢や若手のモチベーションも含め、タイの医療水準は私の想像をはるかに凌駕しておりました。

今後も機会が許す限り、このような交流を通じ切磋琢磨していけることを切に望んでおります。



手術後、Dr Ekavit を中心にフェロー達との一校

TOSSM-JSOA Combined Meeting 2024

広島大学 橋口 直史



我々は Traveling Fellowship の締めくくりとして 2024 年 7 月 4 日-6 日に参加しました。今年は JSOA との combined meeting ということもあり、日本からも大勢の先生方が参加されており、正直ホームな雰囲気も感じました。タイの先生方は若手の先生たちも含めて、皆様が活気があり、全てのセッションでディスカッションが盛り上がっていることに驚きました。当然のことですが、タイの先生方全員の英語が流暢であることに加えて、肩、膝、足関節を中心にスポーツ医学のレベルの高さに圧倒され、自分



左から長谷川先生、Dr. Nadhaporn、筆者、杉先生

自身がもっと頑張らなければ置いて行かれてしまうような焦燥感も覚えました。またそんな白熱した学会の後は盛大なパーティーが開催され、タイで非常に有名な歌手が来たりと、日本では経験したことのないような楽しい夜を過ごすことができたのは言うまでもありません。会場の周りではタイ式マッサージを手軽に経験でき、TOSSM のホスピタリティを肌で感じる事ができました。

学会期間中も含め、TOSSM で経験させていただいた全てに感謝しています。またこのような貴重な機会をくださった JSOA にも改めて感謝申し上げます。この経験を糧に、微力ながらスポーツ整形外科に貢献していきたいと考えています。この度は誠にありがとうございました。

第33回オリンピック競技大会 (2024/Paris) 日本代表選手団に帯同して

半谷 美夏

国立スポーツ科学センター



2024年7月26日～8月11日にフランス・パリを中心に開催された第33回オリンピック競技大会の日本代表選手団(選手団)にChief Team Doctorとして帯同させていただきました。本部医務班は、整形外科医2名(NTT東日本関東病院の武田秀樹先生と半谷)、内科医2名、理学療法士と日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格の両方を有するトレーナー2名で構成されました(その他、副団長兼Chief Medical Officerの内科医1名、Welfare Officerとして出務の精神科医1名)。本大会は事前に医師登録を行うことで、自国の選手・スタッフへの医療行為が許可されており、選手団内・外で計22名(男性16名、女性6名)が医師登録をした上で活動しました。うち整形外科医は17名(女性4名、23.5%)で、競技団体に帯同した医師は1名を除いて整形外科医でした。競技現場で活動するスポーツドクターの中で整形外科医が占める割合が高いことを示していると同時に、競技現場からの整形外科医に対するニーズが高いことも伺えます。

選手団本部医務室をパリの選手村内に開設しました。8時～21時を原則の診療時間としましたが、21時以降に試合がある競技も多く、試合後の選手など24時以降に診療したケースもありました。整形外科の診察室には、縫合処置セットや、超音波診断装置、集束型体外衝撃波治療器なども準備をして対応しました。また、整形外科医に対しては、試合自体への帯同や、負傷後も競技を継続せざるを得ない選手に対しての競技会場内での処置などの依頼があったため、競技現場にも赴き競技会場の医務室も利用して対応しました。合わせて、ドーピング検査のサポートなども行いました。

パリ選手村内のポリクリニックには、建物外にリフトで昇降が可能なコンテナ型のMRI撮像装置2台が設置され、医師登録をすれば直接予約を行うことができました。効率的な画像診断が可能であったことは本大会の特筆すべき点の1つです。

無観客であった2020/東京大会を経験した者として、選手が大

きな声援を浴びながら競技を行っている姿に大変感動しました。一方、COVID-19感染症は選手団内でも発生しましたが、選手・スタッフ自身が自主的に隔離行動をとるなど、関係者全員がこれまでの経験を活かして行動していた印象を強く受けた大会でもありました。幸いCOVID-19感染症で競技を完全に欠場した選手はおらず、画像検査や歯科治療などのためにポリクリニックや外部の医療機関を受診した方はおりましたが、現地で入院や手術となった症例もなく大会を終えられたことに安堵しております。

最後に、本邦のスポーツ整形外科医が一同に集う本学会の代議員や役員の男女比率が、定款などに規定されずとも、自然と競技現場で活動している整形外科医の男女比率を反映するような学会に発展することを期待しています。



MRI コンテナ内部



選手団本部医務スタッフと。向かって右が武田先生、中央が半谷。



MRI コンテナ外観

パリ 2024 パラリンピック帯同報告

塩田 有規

順天堂大学



2024年8月28日から9月8日まで開催されたパリ2024パラリンピックに、日本代表団の帯同ドクターとして参加してきました。本大会では、前回の東京大会と同じく22競技（549種目）が行われ、各競技はパリ市内のさまざまな名所を活かした会場で行われました。開会式はシャンゼリゼ通りでの選手団の行進から始まり、特設会場となったコンコルド広場で多くの観客が見守る中、盛大に行われました。エッフェル塔の下では柔道や車いすラグビー、ヴェルサイユ宮殿では馬術、グラン・パレではフェンシングが行われ、歴史と文化に彩られたパリの風景が競技をさらに盛り上げていました。その中で、日本代表の選手たちは素晴らしい活躍を見せ、金メダル14個、銀メダル10個、銅メダル17個を獲得し、金メダル数では地元開催の東京大会を超える成果を収めました。

私は今回、整形外科医として内科医、リハビリテーション科医、看護師3名とともに、メディカルチームの一員として参加しました。特に、今大会では日本スポーツ振興センター（JISS）との連携が強化され、薬剤の管理や運搬において法的な問題がクリアとなり、電子カルテの導入によって過去の診療データが即座に参照できるようになりました。この取り組みにより、診療の質が向上し、スムーズな医療提供が可能になりました。毎日8時から21時までの診療時間の中で、総診療件数は延べ122件、そのうち78件が外科系、44件が内科系の症例でした。そのうち診療時間外での診療は7件のみで、それほど大きな負担とはなりません。これまでの大会では内科系の対応が多かったのですが、今回外科系の疾患が多かったのは、一つは褥瘡や義足部の皮膚障害などパラリンピック特有の症例が多かったこと、また選手のレベルもアップしてきており、外傷が多かったことが考えられました。また、クリニックで対応できなかった5件（泌尿器系、脳神経系、歯科系の問題やX線・MRI撮影）は、選手村にあるポリクリニックでの診療が必要と

なりました。言葉の問題が不安でしたが、翻訳アプリを駆使し、何とか無事に診療を受けることができました。中には市内の病院での診療が必要なケースもありましたが、大きな問題には至らず安心しました。

新型コロナウイルス感染症については、初期に数名の感染者が出たほか、大会の終盤には一部の競技でクラスターが発生しましたが、迅速な隔離対応により競技への影響を最小限に抑えることができました。この経験を通じて、感染症対策の重要性を再認識し、今後の大会でも対策を徹底していく必要があると感じました。

選手村での生活の中で、長期遠征ならではのストレスを和らげるために、『食』はとても大切な要素でした。選手村の食堂について様々な報道がありましたが、食堂以外に毎日日替わりで料理を提供する特設ブースも設置されていました。なんと、ミシュラン星付きレストランのシェフが監修したという小皿料理が楽しめる贅沢なブースでした。料理の見た目も素晴らしく、味も最高で、毎日の楽しみとなりました。まさに美食の街パリならではの体験でした。

個人的な話になりますが、私は2015年から2016年にかけてパリに留学していた経験があり、今回、日本代表団の一員として再びこの地を訪れることができたことに、とても感慨深いものがありました。特に、留学中に行くことができなかったテニスの4大会が開かれるローラン・ギャロスで、小田凱人選手が出場した車いすテニスの決勝戦を応援できたことは忘れられない思い出となりました。小田凱人選手が大逆転で金メダルを獲得する瞬間を間近で見ることができ、非常に幸せな時間を過ごせました。

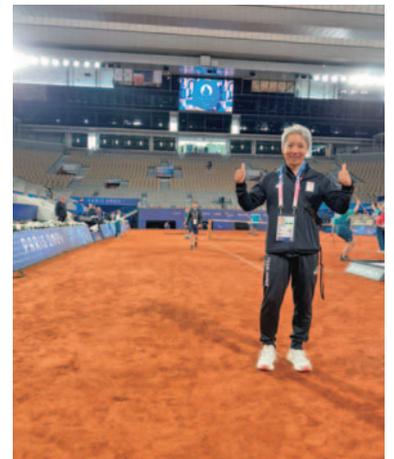
このような貴重な経験ができたことに感謝し、今後もパラアスリートたちがさらに活躍できるよう、引き続きサポートしていきたいと思えます。関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。



選手村内のクリニック



ミシュランシェフのブースにて。トリュフとチーズと卵のクロワッサンサンド。



スタッド・ローラン・ギャロスのセンターコートにて（筆者）

JSOA 新役員挨拶

新しく就任された役員からのご挨拶です

● 理事 ●

兵庫県立リハビリテーション
中央病院

荒木 大輔



この度、日本スポーツ整形外科学会（JSOA）の理事を拝命し、大変光栄に存じます。私はこれまで膝関節やスポーツ医学などの臨床および研究、またバレーボールのメディカルサポートに従事して参りました。今後もスポーツ整形外科の発展に尽力し、スポーツに関わる皆様に貢献できるよう努める所存でございます。JSOAの更なる発展に向けて、会員の皆様と共に、特に若い世代の意見を取り入れながら取り組んで参りますので、引き続きのご支援、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

産業医科大学若松病院 **内田 宗志**



この度、日本スポーツ整形外科学会（JSOA）の理事に就任いたしました、産業医科大学若松病院整形外科の内田宗志（うちだそうし）です。当院は日本で2施設のみ、ISAKOS認定教育センターとして国際交流を推進し、膝、肩、足関節、肘関節、股関節と、多岐にわたる関節鏡視下手術を行うセンターとして、JSOAの発展に微力ながら貢献できるよう努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

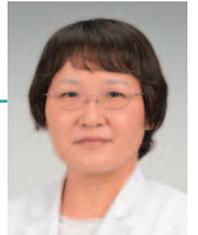
早稲田大学
スポーツ科学学術院

金岡 恒治



JSOAの理事に就任させていただき光栄に感じています。過去の本会誌に、“スポーツ医はジェネラルな知識と視野、豊かな人間性、それにオピニオンリーダーとしての気構えを持つことが大切であります”と第15回JOSSM会長石井清一先生が寄稿されています。この言葉を胸に理事の大任を務めさせていただきます。皆様のご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

順天堂大学 **金子 晴香**



このたび、日本スポーツ整形外科学会（JSOA）の理事を拝命し、大変光栄に存じます。私はこれまで、膝スポーツ領域の診療および研究、陸上競技の現場におけるメディカルサポートを中心にスポーツ整形外科学に携わって参りました。これまでの経験や女性・若手としての発想力を活かし、微力ではありますが、JSOAの発展に貢献できるよう精進してまいります。会員の皆様には、ご指導ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

北海道大学病院
スポーツ医学診療センター

近藤 英司



この度、日本スポーツ整形外科学会（JSOA）の理事を拝命いたしました北海道大学病院スポーツ医学診療センターの近藤英司でございます。日本整形外科スポーツ医学会（JOSSM）および日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）が発展的に統合され、新たに発足したJSOAに携わることができ、身の引き締まる思いとともに大変光栄に存じます。浅学菲才の身でございますが、JSOAが今後益々発展していけるよう微力ながら尽力する所存です。会員の先生方には、今後共にご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

昭和大学 **西中 直也**



新理事に就任いたしました西中直也です。ご信任に深く感謝し、学会の発展に向けて全力を尽くす所存です。委員会活動としてはこれまで主に国際委員として活動してまいりましたが、日本のスポーツ医学は世界に誇れるレベルにありながら、今ひとつアピールできていない印象があります。この現状の改善とともに理事として他の分野でもスポーツ整形外科の知見と技術がより広く活用されるよう努めていきたいです。今後とも皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

徳島大学 **松浦 哲也**



このたび、日本スポーツ整形外科学会 (JSOA) の理事を拝命し、大変光栄に存じますとともに、その重責を痛感しております。私は野球肘などの投球障害を中心に、スポーツ障害・外傷の診療・研究・教育に携わってきました。浅学菲才の身ではございますが、本学会の更なる発展に貢献できるよう誠心誠意尽くす所存ですので、ご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

東北大学 **山本 宣幸**



この度、日本スポーツ整形外科学会の理事に就任させていただきました東北大学整形外科の山本宣幸と申します。肩関節を専門にしております。少しでも学会の発展の力になれるように微力ではございますが、貢献できればと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

● **監事** ●

広島市立広島市民病院 **出家 正隆**



この度日本スポーツ整形外科学会の監事を拝命いたしました。JOSKASやJOSSM、および創設後の本会では理事を務めさせていただいておりました。本会では定款などを作成する委員会を担当させていただいておりました。再スタートから2年がたち、基本となる定款・細則も固まりました。今後は学会運営における財政基盤などの充実や安定化が喫緊の課題を感じております。微力ではありますが、監事として本会の発展に貢献したいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

役員名簿

理事長	石橋恭之	
副理事長	寺本篤史	中村憲正
理事	荒木大輔	内田宗志
	金岡恒治	金子晴香
	古賀英之	近藤英司
	佐藤和毅	鈴木朱美
	武富修治	田島卓也
	西中直也	野崎正浩
	半谷美夏	古島弘三
	松浦哲也	山本宣幸
監事	黒田良祐	出家正隆

編/集/後/記



スポーツ最大の祭典であるオリンピック・パラリンピックがパリにおいて開催されました。金メダル獲得数は、オリンピックでは国外での開催回において最多記録を更新、パラリンピックでは自国開催の前回大会を上回りました。選手の躍進は、競技能力向上を支援する我々に大きな喜びと励みをもたらしてくれたと思います。

さて、第3号となります JSOA ニュースレターでは、本学会理事長に再任された石橋恭之先生から再任のご挨拶を賜り、今後のJSOAの方向性を述べていただきました。盛会となりました JSOA 2024 学術集会で会長を務められた熊井司先生と金岡恒治先生からは学会のご報告をいただきました。早稲田大学にて「学」をテーマとし、アスリートを中心とした医療を学ぶ場を御提供いただきました。冒頭のオリ・パラに関しましては日本選手団本部ドク

ターとして現地で御活躍された半谷美夏先生と塩田有規先生から、医療支援の近代化やその実際について詳しいご報告をいただきました。主に若手の先生方からは、学会賞受賞のことばや Travelling Fellow, Combined Meeting 参加のご報告を多数いただきました。国際色豊かで華やかな号となりました。

国際的な研修や学術的成果の報告が増えていることは、役員の方のご尽力の賜物かと存じます。本ニューズペーパーが、会員の皆様にとって国外に輪を広げ御活躍される参考資料になりましたら幸いです。今後も最新で有益な情報を発信できますよう JSOA 広報委員一同、一層努力してまいります。

落合 聡司
国立病院機構甲府病院



JSOA ニュースレター No.3 2024 年 12 月 3 日発行

編集：日本スポーツ整形外科学会広報委員会

山本宣幸 (担当理事)、前達雄 (委員長)

赤木龍一郎、新井祐志、落合聡司、田崎篤、田中誠人、橋本祐介、

松下雄彦、丸山真博

(2024 年 11 月任期終了)

菅谷啓之 (前担当理事)、熊橋伸之、辰村正紀、中村俊康

発行：一般社団法人日本スポーツ整形外科学会 (JSOA)

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-10-5

オンワードパークビルディング 株式会社コングレ内

TEL 03-3510-3744 / FAX 03-3510-3748

E-mail info@jsoa.or.jp URL https://jsoa.or.jp/